

①兵庫と世界をつなぐ外国人材(その3)

外国人県民が、まわりの協力、支援を得ながら地域に溶け込んで生活し、地域社会や産業の担い手となって、その多様性や自国とのパイプで兵庫の活性化や発展に役割を担っている。

2040年の生活シーン

<プロフィール>

- 南米出身の女子中学生。9歳の時、両親、4つ下の妹と一緒に来日した。太陽の光が明るく温暖な淡路島を両親が気に入り、家を借りて住んでいる。母親は大学教員であり、県内の大学で経済学を教えている。
- 私と妹は、日本に来たとき、全く日本語を話せなかった。
- 学校や病院といった生活のこまごましたことについて、地域の人たちのいろいろな手助けを受けながら、淡路島ですっと暮らしてきた。

<日本語指導>

- 私と妹は地元の公立学校に通っている。最初は日本語を母国語に自動翻訳するヘッドホンをつけて授業を聞いていたけど、日本に来る前に通っていた母国の学校とはカリキュラムが違うので、はじめは授業についていくことが難しかった。けれど、音楽の時間に歌ったり、図画工作の時間に絵を描いたりすると、担任の先生がみんなの前でほめてくれたのが嬉しくて、みんなの輪の中に入れるようになった。
- 外国人の子ども向けに作られた、言葉の数をだんだん増やしていく日本語学習テキストを使って、日本語を勉強した。少しずつ日本語がわかるようになると、友達も増えて、今は学校に行くのが楽しい。
- 私と妹は日常会話には不自由しなくなった。だけど、小学校高学年の頃から、ふだんは使わない日本語が授業で増えてきて、授業についていくのに少し苦労している。

<学習支援>

- 市の国際交流協会から紹介されて、NPO 法人が地域で開いている学習支援教室に通い始めた。ここでは、いろいろな国の子どもたちが集まって、日本人の子どもと一緒に勉強している。
- 私は自分が日本でどう暮らしていくのかイメージができなかったけれど、教室のイベントで、日本で学び、働いている先輩の話聞いてやる気が出てきた。今は周りに助けられながら必死で勉強して希望の高校をめざしている。
- 小さい子どもが好きなので、将来は保育士になりたい。この間、トライやる・ウィークで保育園に行ったとき、私の母国の昔話を紙芝居にしてみた。初めて聞くお話なので、子どもたちはみんなとても喜んでくれた。

<母語教育>

- 私は母国語を話せるけれど、妹は日本に来たとき小さかったもので、かなり怪しくなっていて、ときどき外国人コミュニティの母語教室に通っている。母国語を忘れないようにすることで、両親とも話ができるし、自分のアイデンティティも見失わないと言われている。
- 高校受験が終わったら、私も母語教室を手伝いたいと思っている。

現状や課題

【在留外国人/国別人数（県）】

○国・地域別上位5ヶ国（人）

韓国・朝鮮	46,086
中国	22,353
ベトナム	7,870
フィリピン	3,757
ブラジル	2,293

○エリア別

アジア	87,350
南米	3,347
北米	2,849
ヨーロッパ	2,468
オセアニア	645
アフリカ	358

○10名以下の国・地域数 118

（出典：法務省「在留外国人数（2015年6月末）」を基に県ビジョン課作成）

【外国人地域別人口】

	0～14歳人口			全年齢人口		
	外国人	総数	外国人割合	外国人	総数	外国人割合
神戸	3,409	196,713	1.7%	42,689	1,550,831	2.8%
阪神南	1,198	141,656	0.8%	18,500	1,045,787	1.8%
阪神北	529	102,355	0.5%	8,379	743,017	1.1%
東播磨	608	100,104	0.6%	7,140	728,431	1.0%
北播磨	227	35,768	0.6%	3,422	280,074	1.2%
中播磨	1,026	82,831	1.2%	10,568	587,807	1.8%
西播磨	86	34,726	0.2%	1,667	269,895	0.6%
但馬	29	21,897	0.1%	1,007	178,824	0.6%
丹波	72	13,829	0.5%	1,122	110,915	1.0%
淡路	20	16,586	0.1%	673	142,757	0.5%
全県	7,204	746,465	1.0%	95,167	5,638,338	1.7%

（出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（平成27年1月1日現在）」を基に県ビジョン課作成）

見えてきた兆し

【母語教育】



（出典：一般財団法人自治体国際化協会 HP）

【就学支援】

○子ども多文化共生センター/就学支援ガイダンス



じぶん ゆめ たいけん を 熱く 語る 先輩
自分の夢や体験を熱く語る先輩

※センターは通訳のみでなく、自身の経験・知識によるアドバイス等の支援も行う

（出典：兵庫県教育委員会 子ども多文化共生センター HP）

【専門家等の意見】

○外国にルーツを持つ子どもをきちんと教育することにより、新しい文化や発展が生み出され、地域に新たな魅力ができる。